

友林蘇岐

目次

今後に於ける同胞の覺悟 西野入徳
 滋賀縣下に於ける林區署直營……
 砂防に就て…… 岡 西 萬 秋
 朝鮮林業愚談…… 山下 不二三
 岐蘇林友維持に就ての一私見……
 長谷川 毅
 會員名簿を手にして(二) 越畔山人
 放たる身…… 白 虹 生
 ハガキにて…… 越 畔 生
 彙報……
 特別廣告…… 校 友 會
 生徒募集廣告…… 學 校

今後に於ける同胞の覺悟

在華盛頓大學 西野 入徳

過般大審院最後の判決に於て日本人歸化權を公式に否定せられてより日米兩國朝野を通し人種的意識殊の外強烈となりたるは果して呪ふべきか或は祝すべきか、莫遮加州の農園より放逐せられたる日本人は今や重ねて華州の平野よりも立ち退きを強要せらる、加之東亞に於ける行動すら或はパリ會議と稱し或は華府會議と稱し、直接或は間接に白人の爲めに牽制せらる、かくして日本は今や青島を失ひ、滿洲西比利又吾に歸すべくして未だ歸せず、誠や狐は穴あり、空の鳥は巢あり、されど人の子は枕するに處もなし。

是抑々誰の罪なる？或人は是を米人の不義無道より來ると憤し或人は是を日本人の不化、無頓着或は日本外交の失策に其責を歸す、何れも一應の理なきに非ずと雖も未だ其真を穿ちたるものにあらず、余の見る處を以てすれば是單に米人の不義のみ而起因するにもあらず將又日本人の落度のみより來るにも非ず其深因は之を萬物進化の原則に於し之を發見せらる。

諸進化とは抑何を意見するや Evolution は D. niching なり ex-Delopment なり即ち其先天的内在力が是と境遇とに應じて外部に展開擴張するの意なり。

宇宙は常に進化して止まず、諸行は無常なりと感じて、いろは四十八文字に其厭世觀を歌ひ出せし弘法大師、偉は即ち偉なりと雖も、彼はギリシヤのヘラクリトスと共に宇宙の消極的方面のみを觀、其積極的方面を見通したり、反之ミレタスのアナクサマダー英のダーフィン佛のベルグソンは動的宇宙の淵源を其積極的進化の中に發見したるは實に偉中の偉なりと云ふべし、宇宙に進化す、地球が今日の狀態に達する迄には實に數百萬年の進化を要したり、太陽系が今日あるは實に數億年進化の賜なり、宇宙が現今の榮を見る迄には幾百億年の長き進化を要したり、而して今後も尙ほ永遠に此進化を持續して止まざるべし、進化は展開を意味し、展開は勢力の外的膨脹を意味し、外的膨脹は他の勢力膨脹との衝突を意味し、勢力の衝突は終に生存競争を惹起し、弱者は亡び、強者は榮ゆ、學者之を稱して自然淘汰となす、凡そ此世に生を稟くるものとして此適者生存の天則に支配せられざるものなし、誠に靜且美なる庭前の草花を瞥見せよ、其處に此天則は遺憾なく行はれつゝあり、即ち弱く小さき草花は強く大なる草花に掩はれて日光すら充分に受け得ず爲めに開花結實の期を失して空しく枯死す、更に眼を動物界に轉せんか、此現象殊に顯著なるを覺ゆ、我が隣人嘗て一群の鷄を飼育したり、毎朝一少女の是に餌を與ふるを見るに強き鷄は第一に駆けつけ恣に之をつひばむ、然るに弱き鷄は稍遅れてかけつけ

仲間に入らんとして強鷄の側に至れば彼強鷄は其餌を獨占せんと欲し、之我が領分なりと云はんばかりに鷄冠を振り立て、弱鷄を驅逐せり、かくして弱者は常に充分の食を得る能はず、數週の後終に營養不良を以て可憐にも斃死したり。

吾等人類亦自然界の一部なり、何ぞ獨り自然淘汰の天則より免る、ことを得んや、相異なる二人種相接觸するや其處に民族的自淘汰起る、若し兩人種の實力甚しく懸隔する場合は弱き民族は難なく強き民族に征服せらる、か、或は自滅して強き民族獨り蔓る、歐洲人の移住によりてもろくも破れ漸次滅び行くアメリカ土人は其一例なり、反之接觸兩人種の實力に大差なく而して其利害衝突甚大なる場合は其生存競争自然淘汰の作用最も嚴しく其軋讓熱度を増し、其人種の憎惡益々高潮に達す、而して其極度に到達するや終に戦争を以て雌雄を決するに至る、彼の普佛戦争は其一例にして最近の世界戦は其第二例なり、而して目下我等を圍繞する米國の排日亦實に此民族的實力のせりあひに他ならず、故に之が根本的解決は結局力の問題なり日米交戦も米化運動も結局鼻樂に過ぎず、機械油に過ぎず、そんな姑息的手段にて此難問題を根本より解決し得ると思は、とんだ間違なり、大和民族の實力増加すればする程排日は益々増大す、若し大和民族にして、アメリカ土人の如く、白人の壓迫に服し、民族的自滅を甘

受せんとすれば又何をか云はん！苟も大和民族にして、眞に進歩し展開し、皇天が我が櫻花民族の上に下したる天よりの使命を全ふし、世界人類の幸福を永遠に保證するの意氣あらで我等は排日を恐れず、須く實力を増大し依て以て不義不正なる白人壓迫を打破して勇往邁進せざるべからず、瓦となりて全からんよりは玉となりつ、碎けんこそ男兒の本懐なれ、現在の國際狀態の下にありては、正義も人道も其背後より實力を以て支へらる、に非ずんば徒に口を唱へらる、のみにして到底實行せらる、ものに非ず、國家は聖人の集合に非ず、故に吾等は實力を以て邪曲の民をこらしめ正義人道に歩ましめざるべからず、實行の伴はざる正義人道の叫は最早聞き飽きたり、今や口の時にあらず、腕の時なり、寡言斷行之興國民族の一大特徴なり、之が爲めには力を要す、力、力、然り力なり。

然らば我等は如何にして此力を養成すべき曰く第一個人的に第二團体的に是を養成せざるべからず、以下少しく之を述べん

一、個人的實力の養成

民族の興隆は到底吾等一代の短期間に之を全うし得べくも非ず少くとも數代の絶わざる努力を要す、故に吾等同胞は萬難を排して否一身を犠牲に供しても後繼者たる子女の養成に主力を注がざるべからず、第一に体力の養成最近在米同胞の出産數著しく増加したるは事實なるも、同時に日本人兒童

の死亡率増大し、白人兒童のそれに數倍するは統計の明示する處なり、之抑々何を語るか、日本人が生理、衛生、育兒の智識痛く欠乏せるに起因せずや、母の注意行き届かざる爲め空しく夭折墓に下る兒童の中に吾等は未來の天才を埋りつ、あらざるなきか、母たる者須く育兒の途に精通せざるべからず、次に智育なり、同胞子女の多くは商科及工科に學び、文科、法科、社會科に入る者少し、實用的なる商工科元より必要なるも、民族の發展には専門家以外一方に偏せず、該博なる智識を有する指導者を要す、文科、政治、社會の諸科は之等指導者養成に最適の大學なれば有爲の青年は大に此種大學に入らざるべからず最後に最も必要なるは精神教養なり、在米同胞間の社會道德權威甚だ薄きを以てか、中間に生れしたる子女が勢ひ精神教育に不足勝なるは實に自然の數なり、故に吾等は殊に十二分の注意を此方面に注がざるべからず、假令子供を大學に送るとも、若し充分の精神教育を施さずんば親の子に對する義務中の最大なるものをネグレクトしたるの謗を免る能はず

二、團体的實力養成

團結の力なり、民族的競争場裡に於て最も必要なるは團結なり之なくして個人的に如何に實力ありとも、民族的競争は遂に失敗なり、自由自由と稱して我儘勝手の奴隷となり、團体生活の訓練を欠かかんか、其終る

處は即ち民族的敗滅なり。

然らば吾等團結して何をなすべき、第一に經濟的に團結し、白人に對抗し、其經濟戰に於て凱歌を奏し得る様、同胞の經濟基礎を強固ならしめざるべからず第二に團結して同胞の社會生活を一層豊富ならしめざるべからず、人間は社會的動物なり、善良なる社會、行き届きたる社會組織は吾等の圓滿なる幸福享受圓滿なる人格養成上絕對に必要なるものなり、在米同胞が物質的に安樂生活をなしながら、何となく物足らぬ感あるは、之必竟同胞間に於ける社會生活の甚だ貧弱なるが爲めならざるか、吾等は社會的生活を大に豊富ならしめざるべからず例へば教會以外に青年會、婦人會、母の會等の會等を設け、信者否不信者を全部網羅したる集會を時々催し、文學、宗教は元より其他育兒、家政或は時事問題等を相共に研究し、社會團体生活の趣味を漸次増大せしむるは最も必要なる事なり、更に進んで米國全土に散在する同胞全部を包含する一大團体を組織し、機に應じ、時に従ひ、或は社會的活動に相呼應して團体生活の訓練を積まんか、一方個人的智徳修養と相俟つて我同胞の發展實に驚くべきものあるは火を見るより燦なり。

最後に最も必要なるは之等總てを通して吾等は常に天の明星を仰ぎ、其光に導かれざる事之なり、天の明星とは他なし、高遠なる理想と偉大なる抱負之なり、之なくして

其他の總を有するとも、吾物は終に失敗なり、之なくして健全なる民族發展は望む能はず、瞑想なき民は遂に亡ぶ。

大和民族にして亡びざらんと欲せば、第一に吾等の心を輝く天の明星に繋がるべからず。

○滋賀縣下に於ける林區
署營砂防に就て
京都 岡 西 萬 秋

周圍六十里の琵琶湖を繞る江湖一帯の山嶽は禿元たる赫山多く湖東方面の如きは慘酷たる禿裸崩壞地蛇蛇として連亘に往古に於て沿湖の山麓蒼鬱たりし風光の明媚は到底覺むべくもあらず洪水は頻りに臻りて河床を高め其の氾濫の損害額の如き明治初年の交には一ヶ年平均百數十萬圓の巨額に達せりと聞く森林荒廢の虞るべきは敢て茲に贅するの要なし熊澤蕃山嘗て「水を治むるは山を治むるに在り」と絶叫せり言に至言と云ふべし明治五年以來當局並に政府に於て砂防工事を施行しつ、ありと雖も當初は工費僅少にして然も其工法拙劣なりし爲め効果を認め難き感ありしも年と共に施設宜しきを得るに至り投資年額兩者を合して十二萬圓を算して漸く其効果の曙光を見るに至れるは國家の爲め欣賀に堪へざる處なりか、る狀況の滋賀縣下に在る吾が國有林は坪數六十七面積五千五百五十町歩に

して荒廢に其の極に達し地力衰退して砂漠不毛地に化したるもの多く幸ふしてか、る廢類の爪牙を免れたるものありと雖も頗る粗惡なる林相を構成しつ、あるに過ぎず之を満目鬱蒼生産的森林として復活せしめ現狀を昔語するに至るの時機は尙永遠の後にして之が爲めには不斷の努力を費さざるべからざる處なるべし、茲に國有林砂防施設の極めて概要を記述し諸賢の參考に資せんとす、元より非方にして然も經驗を得るの期少くなく草する處條理轉倒し觀察精緻を缺き讀了して自ら稚氣尙脱せざるの域にあるを羞つ幸ひに補足垂教あらん事を希望す

第一 森林荒廢の原因

上古に於ける近江一圓の森林狀態は史冊の徵すべきもの無しと雖も奈良朝以降に在りては其の一般を窺知するに足るものあり、即ち奈良朝時代に在りては栗太郡田上地方より大材を伐出して瀬田宇治の水使により皇居及寺院造營の用に供したる事蹟あり當時佛教の隆盛に伴ひ堂塔伽藍の大建築諸方に起り縣下の高山峻峯にも其の遺蹟極めて多し之等の造營材は水運の便に富める滋賀縣の森林により供給せられし事少からざるべく又以て當時の雄大なる森林美を想見するに難からざるなり比叡山に於ける延暦時代に建立せし延暦寺の造營材の如きは傳教大師自ら飛錫せし甲賀郡南柚地方より得たりと傳へ又嵯峨天皇の弘仁年間には彼の暮雪を以て有名なる比良山を禁伐林となし次

友 林 蘇 岐

て官用備林と爲せりと云ふ目下森林荒廢の甚しき南袖及地上一本の立木を見ざる比良山の如きは往時一大美林たりしを察するに共に、其の當時既に近畿地方は用材の潤澤を飲きたること明かなり爾後尼利氏の末世に至る迄は一帶の諸山尙蒼鬱たりしと雖も元龜天正の年間に及び戦雲四方を罩むるや近江は無鳥怪忽の巻と化し森林保護の如きは毫も顧りみられず剩へ織田信長の諸佛閣を燒燬にするに際し附近の森林は何れも兵燹に罹りて茲に森林荒廢の端を開くに至れり、徳川氏藩政を布きてより林制草り殖産の業又其の緒に就きたりと雖も近江八十五萬石の地は京都に近接し然も交通の要路たりし關係上幕府の直領並に諸侯の封地公卿の食邑社寺領寺に分割せられ領主數百の多きに達し彦根藩を除くの外は各領地の境界犬牙錯綜し爲めに法令區々にて多くは目前の收斂を事とし永遠の企劃を樹て、産業の啓發に努むるもの稀なりしを以て林政と雖も完備せるものなく加之由來滋賀縣下は地味肥沃にして米穀の産に富み殊に商業盛なりしを以て一般生計の基礎は農商に存し森林に依頼するの傾向少く從て愛林思想の如きは極めて稀薄にして造林保護の途全く杜絶せるの状態にありしなり、明治維新前後に至り舊慣古法は玉石共に廢絶し且つ木材の價格昇騰せしが爲め荒廢に瀕せる森林は益々濫伐せられ落葉落枝の類に至る迄悉く採收を連續したる結果植伐は平衡

を失ひ琵琶湖東南部地方は其の基岩脆弱なる花崗岩又は石英斑岩により構成せられ居るを以て荒廢は一層慘酷たるものにして漸次其區域を擴大し壯渺たる禿山は長蛇の如く横はるに至れり實に滋賀縣に於ける森林荒廢の原因は帝都並に幕府等政教中心地に近接してこれが木材供給地たりしと、中世以降林政の施廢に基く濫伐放行的の結果に外ならずと信す

甲賀郡岩根村西應寺所藏の圓満山少菩提寺四經封疆なる繪圖に見るときは、明應元年(約四百二十年前)の頃大山川の大砂漠地に八王寺神社八ヶ堂宇と菩提寺外二十數戸の寺院及八王寺村なる三十有余戸の村落ありしも背後の山岳崩落して漸次部落を埋没し幾多人畜に危害を及ぼし村民居に安せずして遂に現今の大字菩提寺に移住せりとあり又古老の言によれば今より約九十年前には八王寺神社の華表の上部が砂礫中より露出し小兒等これを飛び超して戯れ遊びたるを記憶すと云へり然るに今や何等の遺跡なく唯一望の砂原と化したるを見るのみ又明治二十五年野洲郡家棟川を潜る縣道開鑿の際川底二十五尺の處より寛永通寶を發見したることありと言ふ此等の事實を綜合して考覈するときは滋賀縣下森林の荒廢の絶頂は遠くも三百年乃至四百年を出でざるべく推案せらる

能はざるが故に政府は夙に復舊を畫策せられ明治五年始めて二萬圓を投して大藏省土木寮と大阪府との立會により瀬田川支流大戸川の水源赫山即ち六ヶ山及奥山南谷國有林の一部及附近公有林に砂防工事を開設し翌六年其の工を終る續て七年より十年迄毎年金壹萬圓を限度として滋賀縣に於て實行の衝に當れりこれ國費を以てする砂防工事の濫觴となす明治十一年度に至り内務省雇技師「デレーケ」氏の設計にて大に工法を改良する處あり土木局と縣との立會施工なりしも十五年度より土木局のみにて施工せらる、事となりたり、之等の施工區域は單に國有林のみ止まらざりしもの、如く現在之が區域の探索をなすと雖も漠として窺知し難きものあり然も當時の工法は尙幼稚たるを免れず、桐生及牧保護區部内等に於ける現在國有林が既往砂防施設の形跡ありて露間等年々に其の成績を認むるを得るが即ち本事業の餘影にして今日より考ふるときは工法拙劣粗雑にして植栽方法等研究を重ねざりしを以て年を老ると共に工事は缺壞崩落し明治三十三年乃至三十五年頃より兩工事を徹底的に施し改植を斷行して漸く現在の成績を收め得たるなり此の如く不結果に終了したるものと雖も地勢等の關係に支配せられて土砂押し止の目的は充分に達成せられたる状況に至りたるものありて兩工事の提唱時代に至り單に地上の植栽木を改植するに止まりたるもの多々あり六ヶ山國

第二 砂防工事沿革

友 林 蘇 岐

有林等にして今尙當時の工事にして不成功に終り將來急速に之が改修を加へざるべからざる地區點在す國有林砂防の農商務省直轄即ち林區署事業と爲るに及び家棟川野洲川日野川草津川の諸川流域國有林及高島郡下の諸國有林に對し着々工事を進め其の大部分は完了の域に達したり農商務省の事業に移る以前一旦地方費及國費との共同事業とも見るべきものありたるも久しからずして其の内容並に施工地域等否として史冊の證據となるものなし一般民有林に對する砂防工事は明治十六年縣當局にて始めて着手し地方費單獨又は國庫補助寄附金によりて年々遂行しつ、ありて方今は年額約九萬圓を投しつ、あるやに聞知す

創始時代より明治四十四年頃に至る迄の工種にして一般に奨導せられ官民共に極力實施をなしたるは階段工中張芝工及積芝工を以て第一としつ、ありしも本工は土性及主要材料品たる芝類の供給難の關係上これを湖東方面の脆弱粗鬆なる山地に通用するは不得策と認められたる結果大正三年始めて滋賀縣に於て積積苗工を施行せり其の結果を見るに成績優良にして張芝工に比して損色なく反て本工は仕上後注水に對する抵抗力強くして欠潰の虞少く芝根の繁茂纏絡状況良好なるの言驗ありたるを以て吾が林區署に於ても大正七年以來殆ど張芝工を廢して積積苗工を以て之に替へ工費の低廉と成林の迅速とを期しつ、あり、大正元年篠原

保護區部内立石國有林に於て藪伏になる被覆工を創設す其の方法たるや主として階段間に於ける法間の土砂崩落する虞あり又は谷張々芝工に於ける切芝節約の目的を以て米藁を以て土を包容し伏藁の面には押竹又は針金を以て押へをなす者なり當初此の工法を實施し成果良好と認めたるも伏藁の腐朽と共に押しせられんとしたる土砂は落下移動して階段を侵し且つ被覆面に植栽せられたる藪苗木の如きは土壤の理化學的性質に相廣せざりし關係上奏効なきを以て大正七年に至りて之に改善を加へ米藁に代用するに藪を以てし藪の一端を筋堀の内側に曲げ込みて表方面に垂れ其の接合部の中央を止釘にて緊締せり此の筋堀は筋工と同様一尺二寸に階段を切り込みたる上巾八寸深さ五寸の溝となし苗木保育の基肥として底部に之を埋め込み此の方法を以て大正八年度桐生保護區部内奥山南谷及其掛外四國有林に施工したるも依然として多額の經費を要し傾斜度並に周圍の状況により被覆せる藪の破損並に腐敗後は敢て米藁被覆の時と大差なく効果の見るべきもの甚だ尠きを以て大正九年度より此の工法を廢止せり筋工は前述藪伏工の筋堀と同斷なる方法を以て傾斜緩にして積苗工を施すの要なきも平柱としては苗木の生育上稍不安なる箇所を對し大正二年度以來施工し今日に至る後述せんとするが如く筋堀の底部に一間當り二百匁の米藁を埋め込み(其の厚さ一尺内外と

し腐朽に近きものは五分内外なり)約四寸乃至四寸五分に土砂を充填するものなれば苗木植栽の餘地充分にして植付並に將來發育上毫も支障なく成績優良なり云ふを得べし此外明治大正の過渡時代に於て粗朶伏工等の新規施工せらる、あり大に舊來の面目一新せしめ良好なる成果を收め得たる次第にして現今に至りても甲種又は乙種粗朶伏工等として多少改良を加へ施行しつ、あるなり方今砂防工事遂行上最も多難にして非常なる焦慮を要するは材料品の質難難を存す其類の如き甚しきものにして新案なる工種工法の發案によりて之が使用を節約すと雖も尙莫大なる消費額を算す由來滋賀縣下及之に近接せる奈良縣東北部の如きは砂防工事の實行永年に亘り連續せられたるを以て附近の芝敷供給地は殆ど之が缺乏を來し湖西の一大平原として當局者の注目を惹きたる泰山寺野及響庭野附近の如き今日に至りては既に良好なる芝類の産出する無く芝拂底の聲は四方に起りて事業者は已むを得ず之を遠距離にして多額の運搬費を要する富士の襟野に求めざるべからざるの悲境に陥りたるは實に遺憾の次第とす

次に最近施工の主要工種單位當り經費算出表を掲げん

工種	年度單位	單位當り實行經費
三枝	大正六年度	九年度
苗	張	均
芝	工	〇、四五
工	張	〇、四五
種	工	〇、四五

友林蘇岐

藥積苗工	0.510	0.641	0.677	0.636
筋工	0.641	0.590	0.332	0.332
甲乙粗梁	0.232	0.232	0.232	0.199
積工	1.219	0.552	0.865	0.933
伏工	0.552	0.107	0.733	0.699
水路張芝工	0.332	0.332	0.332	0.332
山腹石積工	1.275	1.275	1.900	1.489
山止石積工	4.944	4.944	4.944	4.944
伏工	0.641	0.641	0.641	0.641

朝鮮林業愚談

山下 不二三

私は或る書物で「文化の進んで居る國程技術員を優遇する彼の獨乙の如きは最も技術者を優遇して居つた」といふ事を書いてあるのを見ましたが私も實に此の感に堪へないのであります。一体日本といふ國は法學者全盛であり技術者を大切にしないといふ傾がある。爲に先年川瀬博士が代表で諸學に對抗する爲めに一大團結を組織して技術者の待遇改善に運動を起されたといふ事

を新聞紙で見ましたが誠に結構な催で其後どうなつたか知りませんが確かに今日日本の技術者は法學者に壓迫せられて居る之は獨り林業のみならず醫工農其他總てに於て然りであると思感され遺憾に堪へない次第であるのであります。

此の傾向は特に朝鮮に於て甚だしい之は新開國は先づ制度を確立する爲めに法學者が全盛を極めるのは止むを得ない事であるが併台以來十數年今日迄何等舊態を改めて居らないといふのは時代錯誤も甚しい。總督府の五大政綱として産業開發に全力を注いで居ると稱されて居りますが今日産業開發の任にある技術員の何處に改善された点があるか、郡在勤の技術者の如き漸く此の頃恩給制度が出来た位でまだ一般官吏の様に宅宅料は支給せられて居らない、又常に出張する故旅費の支給日額も一般官吏より低い、如斯は内地の官行と反對で大正八年に於て其の爲めに全鮮各道技術員が結束して待遇改善の一大革新運動を起した程である元は郡在勤の技術員はいつまでたつても雇員待遇であつたのが此の爲めに最近判任及待遇に昇格した改善されたのは此れ位のものである。勸業技手が産業技手になつたわけである。

此の傾向は獨り地方部のみならず凡てに於ても然りである様に見受けられるのである。渡鮮御希望者は豫め此の点を承知される必要があるであらうと思ふ。

朝鮮の林業の一部分に就ては最初の愚談に書きましたから御承知の事と思ひますが朝鮮に於て林業に携るものは餘程の苦心を要する何となれば朝鮮の人には林業は最も不向な産業だから。

私共が田舎の農村を實地に見て廻つて最も感ずるのは現今に於ける朝鮮の農家のあまりに碑弊して居る事である、歐州大戰後民本思想急激に勃興し勞動運動等旺になるに伴ひ内地に於ても現下小作爭議がやかましい程であるが朝鮮に於ける地主對小作人の貧富の懸隔は内地の夫れと比較にならない所謂兩班なるものは京城に住居の廣大なるものを構へ悠々閑々と養澤にその日を送り地方の所有土地から小作を取り立て、安樂に暮して居るが地方の小作人は誠に憐むべき状態にある、地方農村の農民の生活程度の低いのは實に御話にならない程で極端に言へば何處に生存の意義ありやといひ度くなる程である詳細に亘るが農民の多くは稗粟を常食として居るものが多く麥を食ふものは生活に餘裕あるものとせられて居る、況や米に於ておやである着物の如きも一枚きりのものが多く着換を持つて居るものは少く、こんな状態で非常に農村は困つて居る未だ教育は一般に普及せられず農民の多くは無智で幸か不幸か安穩であるが將來教育が一般に普及せられた時に於て朝鮮に於て爲政者の最も頭痛の種となるは小作爭議

友林蘇岐

の問題であらう、餘談に亘るが爲政者にし今より對策を講じて置かなければ他日取り返しつかない事になるであらうと思ふ、獨立騷擾はまだ鎮定し安いが然し朝鮮在住民の大部分を占める農民が食はんが爲に一揆を起した時には收拾されない状態に陥るであらうと思ふのである、人間は生きんが爲め食はんが爲めには如何なる手段をも辭せないのだから。

話は傍道に外れましたが朝鮮の農村は現下斯んな状態にある、食ふのにさへ困つて居る。

この農民に長期間を要する植林事業を、め林業を旺盛ならしむるには一方ならぬ苦心を要する、農民は林業處の話ではないのである。

私は先月から今月にかけて長らくの間病床に臥し又今月林業技術員會議があつて多忙だつた爲纏まつた考へが出ず従つて意見も前後齟齬し愚談が愈々愚談になつて各位に申譯がないが諒として頂いて此の頃同窓君から朝鮮事情に就て御照會があつたから各位一般の御參考の爲めに林友誌上を借りて○君の貴問に答へる事にします。

○君に對する御答へが遅れたのは右の事情です。悪しからず御許し下さい。一、所行又は營林廠等に就職しての月収幾何といふ御尋ねがありました。右は内地も何處も同じく各人の前歴其他を参照して採

用するのですから具体的に幾何とは申されませんが要するに直接御希望地に御交渉下さい。但し官所に奉職するとなれば本官ならば六割の在勤が体がつきまますから之は内地方官吏より餘方の収入です。雇員では在勤が体はつきません。一般會社にも在勤が体制度がある様ですがその詳細は存じません。

二、一ヶ月に要する生活費

之は各人の生活程度に依るから一概に幾何位か、るとは申されませんし又田舎に生活すると都會に生活するとは自ら違ひますから御答へに應じかねます。然し乍ら朝鮮では製造工業が未だ發達しない爲原料品は頗る内地より安値だが工品は確かに内地より高價である、又内地より品物を取りよせる時には郵税も高いし税關で關税がつく、この点は御了承を願ひます。

三、眞面目にやれば金は残るでせうか

之は勿論の事でありませう。一体貯蓄といふ事は収入の多少にはよらないものでその人の節儉如何にあります。如何に多大の収入があつても儉約しなければ何にもならない。

四、最初より妻帯渡鮮して生活が出来るといふは未だ結婚故よくは知らないがチョンガ一より二人生活の方が生活費はいらないといふ事である。學校出立のほや、が誰ぞ英同氏は早く「妻帯して其稼を爲すにあり」と答へたので私は未だチョンガ一故御す

五、朝鮮官所の恩給年限

内地の一ヶ年が朝鮮の一ヶ年に相當する譯けです。その外色々御照會がありました。前號御照會下さい。

尙附け加へて申し上げますが内地もそうではうが朝鮮に於て依頼心を起すといふ事は極く禁物です。何方各地よりの寄り合ひ世帯です。から内地人情は敦厚ではありません。から、何處へ行つても獨立自營といふ事は必要な事です。「ひとつばり」も必要ですが全然之にたよるといふ事も考へるのです。

或る人が英京ロンドンへ行つて歸つて來てからの話ですが「外國へ行けば日本人もそう多くはないから日本人同志集れば頼りになつて懐しく力強い事であらうと思像して行つた處でなくてもない目にあつた頼りになるのは日本人同志よりも却つて英國人の方であつた」といふ事を聞いた事があります。たがこの朝鮮でも此の傾向がありますので、古くから朝鮮に來て居る人達には殆んど身許も分らん人がある、我利ノ、亡者が

多くて氣を許せるものは少い様である
却つて朝鮮の人の方に心を許せる人を見受
けるおながも異民族だといつて鐘かぶどを
心に着る必要もない人情は同じであるから
誠を以て對する時は朝鮮の人と雖も頼にな
らないとは限らない、分け隔てをするから
いけないのであります

それから朝鮮で成功されんとする人は須ら
く初めから朝鮮の人になり朝鮮の土になる
といふ覺悟が必要であります、前號にも述
べました通り浮き腰では駄目である、又朝
鮮の人に對して「おれは内地人である」とい
ふ誇りを心に持つて對する様では駄目で
ある、朝鮮の人と同じ様にニクスの入つ
た漬物を食ひ粟稗の飯も食ひ朝鮮古來の風
習に従はなければ駄目である、それには先
づ第一に朝鮮語に熟達しなければいけない
「朝鮮に居るのもいつまでの事かわからな
いから朝鮮語等習つてもつまらない」とい
ふ語を多くの内地人から聞くがこんな事
は朝鮮に來た意義がないひしろ始めから來
なかつた方が氣が利いて居る、私も常に朝
鮮語の熟達せん事を希ひ少くとも國語と同
じ位自由自在に話す様になりたいものだ
心掛けて居るが仲々上達しない
朝鮮語は世界中の語の中で最も難解とせら
れて居るから一方ならぬ努力を要する
人間の將來は逆睹し難いが私は大概の事
は内地に歸らんつもりである

最初渡鮮せんとする際「朝鮮の土になる」、
と深く覺悟して玄海洋を渡つた、爾來四星
霜此の間三度風土病の爲めに生死の境を往
來したが未だ内地へ歸らふとは思つて居ら
ない將來どうなるかわからないが現在でも
朝鮮の土になるといふ覺悟は變らない
どうか渡鮮御希望者は廣く言つては國家の
爲狭く言へては母校發展自己發展の爲「朝
鮮の土となる」といふ覺悟で御出でなさら
ん事を希望します

朝鮮に於ける最近の重大突發事件を序に各
位に御知らせしやうと思ひます之は前號及本
號の趣旨とは全然無關係ですから御了承下
さい
既に新聞紙上其他にて各位は御承知の事と
存じますが當地も嚴冬結氷期に入つてから
色々の事件突發し誠に物騒です
結氷した鴨綠江上を涉つて對岸滿洲から潜
入する不逞鮮人(一名朝鮮馬賊)近時漸く
多く去る一月十二日夕八時京城鐘路警察署
に爆烈彈を投入したものがあつて通行人七
名負傷し大騒ぎでしたまだ十日を経過した
今日探捕せられませんが越つて十七日ピスト
ル所持の犯人京城に潜入し警官十七人にて
探捕に向つた警官一名ピストルの爲即死
し警部二名重傷を負ふて犯人は逃亡してし
まひました、之も不逞鮮人の一人でせう
爲めに京城全市は宛然戒嚴令を引かれた様
な騒動で物騒千萬です、之等犯人は何れ捕

まるでせうが今年に入つてから兎角物騒で
す傍ら謔文雜誌「新生活」が朝憲亂の爲
發行停止され當該責任者は收監せられ朝鮮
も平靜ではありません、如斯事は近時あま
りありませんでしたがぼつ／＼出始めまし
たこんな状態は須らく長年月に至つて續く
でせう、絶滅するといふ事は絶対に不可能
なことです
警官も内地警官より一つ餘分の仕事を持つ
て居るわけです
朝鮮統治も仲々骨が折れることとせう

○岐蘇林友維持に就ての一私見

長谷川 毅

一月號の本紙上に於て將來本紙を如何に
して維持すべきか又其經營方法に就て如何
なる改革を要すべきか我々卒業生の意見を
述べて貰ひたいと編輯部より特別廣告を以
て御尋ねがあつたから私は卒業生の一人と
して自分一個の卑見を少しく述べて戴
きたい
本紙が何年頃創刊されるに至つたか卒業
後日猶淺い私は未知のことであるが、發刊
されるに就ては何か其處に必要な動機が起
つたのではあるまいか必要とまで行かなく
とも本紙の發刊に依て母校と卒業生の間
に又卒業生相互の間に時々の消息を知り合
ふことがお互の親みをよりよく深からしめ
るのと又一は何かに付け母校の報道機關と

して至便なる場合が尠くないと考へらる、
に至つた爲ではあるまいか、絶對的必要で
なくとも斯る事情から設けられたるものと
すれば既に必要と謂はなくてはならぬ、是
は私一個の考へを述べたに過ぎないかも知
れぬが此の見解と異なる諸君があつたに
も母校の卒業生として又將來卒業生たらん
どして在校せらる、諸君であるからには本
紙の存立を冀はぬものは一人もないと私は
斷言して憚らないものである、斯る立場に
於てこそ本紙の實質的意義があり尙是を發
展せしむべき必要があるのではなからうか
此の様な分り切つたことをくどくどしく云
ふのも本紙の存立の必要を私の卑見の前提
としたいからである、我々が在校の當時丸
山岩吉君(十二回)山下不二三君(十四回)等
が本紙の改革に就て盛に御意見を出されて
以來度々本問題(或は改革の外に存否の意
味を含んで居つたかも知れぬ)は本紙上に
繰り返さる、に至つたが今日に於ては其の
内容の改革どころではない、維持の問題で
ある、無論本紙の存立を認める以上其改革
を斷行することは本紙を尙一層存立の意義
をあらしめる所以であるかも知れぬが一月號
の特別廣告に示された本紙の目下の状態を
考へる時は改革する前に維持經營の方針を
定むるのが順序であらねばならぬ、尤も其
維持の方針を確立することが既に改革の第
一步であるとも云へよう

先づ維持の問題として第一に考へなければ
ならぬのは維持費の件である、度々編輯
部から紙上に訴へてある様に九百部の本紙
が二百の在校生と極く一部分の卒業生の納
金のみに依つて今日まで維持して來たといふ
ことは如何にしても不合理千萬と謂はなけ
ればならぬし又維持の仕様もない、此維持
費に就て我々十四回卒業の者が在校して居
つた當時のことを申し上げておきたい、我
々が二年の時翌年度の校友會豫算會議があ
つて偶々此の維持費の問題に觸れ其時三年
の儘か村上安太郎君だと記憶して居るが同
君が「卒業生で納金しない場合は林友雜誌
の發送を中止しては如何」との意味の提議
を出した處當時校長の七宮先生が「例ひ未
納者があつても其は會費を拒むといふわけ
でもないし又卒業生の多くは山間僻陬の不
便の處に居つて林友雜誌は母校を知る唯一
の機關であるから従來通り全部に對して發
送した方がよい」との御意見を述べられ是
に對し誰も異議のあるものはなかつた、其
當時は本紙の維持が困難だと云つても現在
に比ぶれば物價も余程廉く發行部数も少か
つたから今日程ゆきまつては居なかつた
らしい、斯様な次第で卒業生に對して納金
の額とか時期とか云ふことに就て別に確た
る規則は設けられなかつた様だと記憶して居
る、それで卒業後の我々も一定の額も送金
の時期もなしに思ひ思ひに自分の思ひ付た
時納金して居る様なわけでは何時頃になつて
新たに納金してよいか分らなかつた云ふ風で

現在まで來たのであるが我々以前の卒業生
も我々より以前の時から我々と同様な氣分
である様に思はれる、其は本紙終頁の林友
代金領收欄の金額を見れば明である、尤も
我々卒業の後に於て在校の諸君が一定の規
則を設けたかも知れぬが其規則の内容が紙
上に載つて居ない處を見れば例ひあつても
確たる効力のあるものではないらしい、ど
いふのは其規則が設けられても其を實行す
るに余程嚴密に運用して未納者に對しては
一々個人宛に督促するが集金郵便をする位
のことをしなくては纏りが付かぬ、是は何
處の學校でも實行して居るらしい、他人か
ら手紙を貰つて返事を出すのに出さぬ積り
でないのに仲々出し得なかつたり督促せ
いふ有難い褒美を附けらるる税金でさへ
オイソレと早速參らぬ世の中だから此の位
の方法を探らなければ駄目らしい、然かも
是を等閑に附するのは當に筆不精や金のだ
し惜しみのみの爲ではない、寧ろその大部
分は人間の通有性たるオグレンジェンスの横
着の仕業であつて林友紙の編輯部の諸君が
嚴に取締を要する點も此處に存するのであ
り是を受くる卒業生も編輯部を恨むことわ
けでもあるまい、と云つて私は最近の編輯
部の經營の方法が手緩と云つてそれを責む
るのではない、此二三年間に本紙は以前の
ものに比すれば紙質に於ても編輯に於ても
勝つて居るのを認めざるを得ない、又今度
の維持の問題を起したのも是は何程かに於

て編輯常事者の眞摯な勤勉から餘義なくせしめたものであつて多年苦心辛酸の裡に奮闘して來た其勞其功に對しては毎月林友紙を手にして居る我々卒業生は滿腔の謝意を表さなければならぬ

次ぎに前述の意味に於て私の具體的意見を申し上げたい

(一) 一月號廣特別告の四箇條、第一、本紙發刊事業を獨立經濟にする事、第二維持費として年額六十錢餘金する事、第三、校友會基金四百圓を本紙の基金とする事、第四、從來の代金納付のものは三月迄の分を精算し剩餘ある時は四月以降の金に充つる事

右は何れも大體に於て可とするも獨立の經濟にする以上は編輯外の會計會員移動調査、發送等の業務は係員を設くるか囑託の方法に依り之が經費として第二の維持費を少しく増額する事

(二) 納付期日を一定し未納者に對しては個人宛に催促の通知をするか若しくは集金郵便に依り極力集金の完備を圖る事、但し納付期日は毎年四月一回とし第四條に依る既納金の剩餘額は年額を以て除しその端數を四捨五入して既納者に對する不要納年數を定め今年度より幾年后に於て約金し始めるかを通知せられたき事

以上の二項を申上げて編輯諸賢の御参考に

供したい (大正二二、二二、二二)

○會員名簿を手にして

越 畔 山人

前回は東京管内の事を書いたが聞説熊本山下常記氏(三回)も疾うに署長の椅子に就いてる

又遠く沿海州方面に活躍した山下藤一氏も目下は東京に靜養して餘りに機會を待ちつゝある、此外亞港方面に活動中の高村(三回)等もあるが今回は之にて失敬し終りに巖にも一寸述べておいた東京府の遠藤氏が愈々一月廿四日附叙高等官七等從七位東京府技手で御目度い事になつた事を報じて擱筆せん尤も同氏の如き一ヶ所に勤続十數年に及ぶ精勵家は稀に見る處で山人の如き一年一ヶ所の放浪的なるに比せば實に霄壤の差がある阿々

一回の福井は三井を退りても矢張り東京在住である同氏の山の明るいのに感心して來人があつた、大分財政方面で活動の様に承る

次に九回の木下氏も横濱水管から目下信越電力に鞍替し中々に大した御勢力の由遙かに祝電申上げる

又我クラスでは細江氏が輕井澤に於て殆んど兩室の地所部長格で活動されつゝあるさくクラスメートとして大に人意を強うする次第だ

以上福井細江兩氏とも名簿には郷里にある様に記されてある

○放たる、身 白虹生

幾度か思ひ返して心ゆかぬページ繰りつゝ、うら若きみとせを

溪川の淀みに迷ひける吾が胸の苦しかりしよ。流れては出で行く水の大海原に注ぐわたり

果しなき虚空に満ちて新しき智識の寶庫は扉を開けて待ち焦るらむ。たゆみなくタイムを追ふて推しうつる文化はめぐる黒潮に浮びて

なごきに集ふ波のまに、若き前途に打揚がるなり。水のながれを翹りていや深く籠れを繋に自然のアームに抱かれて

のどかに耽くる若き身はそゝろに廢れ終るらむ。時ど辨へぬ鶯の老ひ鳥はふるびたる嘴を角たて

木蔭わづかに洩る光に伸び行かんずる若芽をあたたら惜くも啄むなり。

忌まはしき露を出でこ心は押へられぬシヨックに煽られ眞紅に燃わてどよめくを冷き淀みに暖かれてみどやが年月漂ひぬ。

身にまつはるうたかたは得ならぬ毒手を擡げて微妙に心を惑はすを堅き志操のなかりせば淀みの底に沈みてけむ。

援けを乞ふに舟もあらねばひとり淀みに身を浮べつれ／＼のすさみに學べる細きながれのよすが求めてのがれ出づる春を迎へぬ。

心進まぬ學びならぬこそよし疎牛の歩みなりとも魔のひそむ淀みを逃れて廣き舞臺に出でたつ身はおぼつかなくも樂しき。

一九二三、二、一五

◎ハガキにて 越 畔 生

林友經營に關して申述候
第一五九號所載の件大賛成に御座候 殊に第一項の如きは當然獨立すべき事柄と存し候又維持費は校外者よりは集金郵便なり何か妙案を以て徴收され度斯申す小生なども長々とタダ讀みの一人にて御座候 阿々

彙 報

- 紀元節拜賀式 午前九時より講堂にて
- 武術本會 紀元節式後講堂にて舉行
- 参加者多數、近村青年等、各公官衙員を始め參觀人多し
- 因みに柔道進級者 二級 宮下武夫 小松雄二 水野福三 相吉甲子永 河上榮司 三級 中谷力三 安田二郎 辻井誠造 佐藤鎮守 奥原亮 櫻井榮一 大池澄男 河崎好正 (以上三年) 岩尾慶一 新井深美 米倉寛 新村洋 安江道雄 青木友廣 大内隆 (以上二年) 丸山一雄 (以上一年)
- ◆記念會禮金領收報告
- 一金拾五圓也 市川 潔君
- 一金拾圓也 小松 義二君
- ◆菊池先生謝恩金領收報告
- 一金貳圓也 伊藤 良雄君
- 一金貳圓也 長崎 信一君
- 一金壹圓也 原 圭水君
- 計金八圓也 池主 鐵治君
- ◆異動と消息
- ▲坂本光太郎君(十三) 平安北道江西郡廳勸業課勤務
- ▲去年十一月王子製紙會社朝鮮分社操業中止の爲辭職今同平安南廳奉職江西郡兼龍岡郡在勤被命
- ▲和田實也君(十五) 全羅南道長興郡朝鮮農林株式會社へ奉職
- ▲米山芳郎君(十六) 南滿洲熊岳城居住
- ▲大久保猪三郎君(十五) 上伊那郡朝日村

▲三原忠一君(十七) 東京市下谷區上野櫻木町四三下谷新聞社内

▲片桐藤吉君(十九) 岐阜歩兵第六十八聯隊第十中隊

▲遠藤宗作君(二) 今同本務を辭し兼務たる財團法人東京府市場協會に勤務專ら公設市會の事務執掌

因みに、退官の際東京府技師高等官七等となり母校出身者としては國費の技師の新例を造ること、はれり

◆編輯部より

餘寒料峭の候會員諸兄の益々御清榮を祈ります、毎度編輯係りの怠慢により發行遅延致し申譯もありません、然るに係らず會員諸兄は之を諒とし援助を惜まず、盛に投稿を賜ふは感謝の至りであります

時代思潮は輕薄であります、その流行といふ點に於て賣色女の掛標の柄ほどの價值もありません、さりとて古き形骸の中に閉ぢこもり上へは頑固を裝ひつゝ、内心秘かに新思想を怯づる保守主義は又伸びゆくもの、執るべき道では勿論ありません、自由なる檢計と正明なる常識とのみあつて總ての問題を解決して行かねばなりません

た諸兄も心配したと思ひますが其後事件は無事に生徒の戒飾改後により解決致しました今は唯一同來るきべ總決算期を首尾よく通過せんと願つて居るのみであります

◆特別廣告◆

岐蘇林友の改善につき會員諸君よりも種々注文があります。目下の實情は改善は愚か是が維持に苦心して居る有様です。岐蘇林友の發行部數は現在八百部許りで、二百部は在校會員に六百部は校外會員に配付して居ります。而して是に要する經費は年額四百圓許りですが、校外會員より雜誌代として納付せらるる、額は年八十圓位のもので、残り約三百二十圓は在校生徒で負擔して居ります。校友會の總經費の約四割は雜誌發行の費用に取られます。其の他の校友會事業例へば劍道柔道弓術庭球等の事業や學藝會に關する事業に要する經費に欠乏して何時も困難して居ります。斯くまで他の事業を犠牲にして發行して居る岐蘇林友はどうかと云ふに諸君が先刻御承知の通りの有様です。今後年々卒業生の増加するに従ひ發行部數も増加せねばなりません。是迄の通りの新卒業生が五六ヶ年分の雜誌代として一圓五十錢納付せらるる、以外校外よりの収入がないとしたならば、漸次紙面でも縮小して維持する外はないでありましょう。縮小又は縮小で終に廢刊の止むなきに至るやも知れませんが、明治三十九年以來同窓の温交機關として發行し來れる岐蘇林友が、叙上の如く維持困難の状態にあることは洵に憂慮に堪へません。から、大正十二年四月以降は左記の經營方法に依り將來の發展を圖りたいと思ひますが、之につき校友諸君の御意見を伺ひたいと考へます。

記

- 一、岐蘇林友發行事業は獨立經濟に依ること
- 二、校友會員たる在校職員生徒並卒業生は雜誌發行の維持費として年額金六十錢を齎金すること
- 三、校友會基金として保管しある金四百圓は之を雜誌發行資金に充つる事
- 四、從來の規定により雜誌代金納付のものは三月迄の分を精算し剩餘ある時は四月以降の出金に充つる事

◇廣告◇

- 一、募集人員 一學年約九十名
- 一、入學試驗 高等小學第二學年修了程度ノ算術理科及國語ノ試驗ヲ行フ
- 一、入學試驗ノ場所 木曾山林學校内 西筑摩郡以外ノ志願者ニハ志願者ノ所在郡役所ニテ行フ
- 一、入學試驗期日 三月末ノ見込(確定ノ上ハ通知ス)
- 一、入學願書 〆切三月廿五日限リ
- 一、入學試驗入學許可入學式等ノ事柄ハ志願者ヘ一々通知ヲナス
- 一、詳細ハ御照會ニ依リ入學試驗手續及「入學者のために」「入學のすゝめ」又ハ規則書ヲ送附ス志願者ハ至急本校ヘ御照會アリタシ
- 一、願書ハ至急差出スヲ宜シトス充分御便宜取計フベシ

大正十二年二月

長野縣木曾山林學校

大正十二年二月廿三印刷
大正十二年二月廿五發行

長野縣西筑摩郡島町三番地
編輯兼發行人 安井正夫
長野縣松本市小柳町全番地
印刷 人 淺川吉藏

長野縣松本市小柳町全番地
印刷 所 淺川印刷所
長野縣西筑摩郡島町全番地
發行 所 廣澤書店

【定價金參錢】